

zip\_\_sign and still lifes(記号と静物)

exhibition\_ishiba ayako(石場文子)

2020.04.10\_04.26 11am\_\_7pm

Gallery P A R C  
GRAND MARBLE

2014年に京都嵯峨芸術大学造形学科版画分野を卒業、2016年に愛知県立芸術大学美術研究科博士前期課程を修了した石場文子(いしば・あやこ / 1991年・兵庫県生まれ)は、おもに写真を媒体とした作品を制作・発表し、2019年には「VOCA展2019 現代美術の展望 — 新しい平面の作家たち」での奨励賞受賞や「あいちトリエンナーレ2019」への参加など、多くの注目を集めています。

石場はこれまで、写真を媒体に日常的な風景を取材し、そこに実際の面や線によって介入することで、鑑賞者の「見る」と「認識する」の間にズレを生じさせ、私たちの視覚認識のあり様へと注意を向ける作品を制作しています。

2014年ごろから制作をはじめた「ソファと□のある風景」シリーズは、赤や青の色面や、ストライプが印刷された四角形の紙をソファの上に並べて撮影した作品であり、同時期に制作された「Laundry」シリーズは、靴下などを撮影・印刷して切り抜き、物干し機に洗濯ばさみで吊り下げた様子を撮影したものです。これらはいずれも実際の空間では平面(2次元)であったものが、写真内の状況によってクッションや洗濯物といった立体(3次元)と錯視されることで、私たちの認識のあり方に触れるものといえます。また、近作である「2と3のあいだ」、「2と3、もしくはそれ以外」シリーズは、実際の被写体の輪郭線に見える部分を黒く塗りつぶして撮影することで、今度は実際の立体(3次元)を平面(2次元)へと錯視させています。

石場は写真の中に「面」や「線」によって介入し、そこに錯視的な視覚をつくり出すことで、鑑賞者に(2次元)と(3次元)という概念を強く意識させます。これにより鑑賞者は視覚と概念のズレを認識し、そこを「往き来」するような鑑賞体験を得るといえます。しかし、ここでなにより興味深いのは、これらが「写真」の内に発生している点であるといえます。写真といういわば平面(2次元)の上のイメージにおいて、私たちのこの「2次元⇄3次元」という錯視・認識のズレは、何に起因して発生するのでしょうか？あるいは紙とインクによる平面を(2次元)と呼べるのでしょうか？

当初、「2次元⇄3次元」という構造に感じた私たちの違和感は、やがて「そもそも2次元、3次元とは何か？」へと転じ、その反復の幅は大きくなっていきます。

本展では石場の現時点での代表作となった「2と3のあいだ」、「2と3、もしくはそれ以外」シリーズ作品と合わせて、これまでの作品の中でも幾度か思考されていた「パターンや記号」・「静物」といった要素を取り入れた作品を発表します。また、これまでの(2次元)と(3次元)という構造の中に「時間」という要素を扱った作品を組み込んだ構成として展開します。

本展は今までの石場の作品を点検する機会であるとともに、現時点での作家の興味や、今後の作品展開を見とおす機会としてお楽しみいただけるのではないのでしょうか。

一見何もない、なんでもないことが「何もないことなんてない」と感じた時、自分の立っていた世界が脆く、目の前が一気に広がる気がしています。

例えば、ただの壁だと思っていたものにドアや窓が付いていたら、きっと私たちはその壁の向こうを想像すると思います。私の作品はそんなドアのような存在でありたい。

誰かがこうである、と決めたことに対して私は作品を通して笑ってやりたいのです。違う見方を提示したい、可能性を模索したい、自分の立っている場所を少しでも広げたいと思っています。

石場文子

[C.V.]

石場文子 ishiba ayako

- 1991 兵庫県に生まれる  
 2014 京都嵯峨芸術大学造形学科版画分野卒業  
 2016 愛知県立芸術大学美術研究科博士前期課程修了

<個展>

- 2019 「次元のあいだ」 児玉画廊(東京)  
 2018 「たかが日日」 山下ビル(愛知)  
 2017 「2.5」 KUNST ARZT(京都)  
 2015 「しかく-Square/ Sight/Blind spot-」 KUNST ARZT(京都)  
 2013 「house」 KUNST ARZT(京都)

<グループ展>

- 2019 さっぽろアートステージ2019 ART STREET 美術展『まなざしのスキップ』札幌文化芸術交流センター-SCARTS(北海道)  
 - ignore your perspective 52「思考のリアル Speculation ⇔ Real」 児玉画廊(東京)  
 - 「LUMIX MEETS BEYOND2020 by Japanese Photographers #7」 Gashouders(アムステルダム) / IMA Gallery(東京) / Galerie Nicolas Deman(パリ)  
 - あいちトリエンナーレ2019「情の時代」 愛知芸術文化センター(愛知)  
 - IMA x Edition “STYLED IN PHOTOGRAPHY” vol. 1「写真を着る、言葉を纏う〜フォトグラファーと言葉によるTシャツコラボレーション〜」 IMA Gallery(東京)  
 - 「VOCA展2019 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」 上野の森美術館(東京)  
 2018 「Pop-up Dimension 次元が壊れて漂う物体」 児玉画廊(東京)  
 - 「メソッドの考察」 愛知県立芸術大学学食2次元(愛知)  
 - ART NEXT NO.3「不透明なメディウムが透明になる時」 石場文子 x 守本奈央「温かいベンチ」 電気文化会館(愛知)  
 - 石場文子 x 守本奈央「立てる」 Masayoshi Suzuki gallery  
 - 「写真的曖昧」 金沢アートグミ(石川)  
 2016 ギャラリー矢田パートナーシップ<Next#4>「見えないものをみる力」 市民ギャラリー矢田(愛知)  
 - 石場文子 x 中山絵梨「アワーモデルルーム」 愛知県立芸術大学サテライトギャラリー(愛知)  
 2015 「Lagrangian point パースペクティブカスタマイズ」 Gallery PARC(京都)

<受賞歴>

- 2019 VOCA奨励賞

## 2F

- 01 | **のあいだ、あるいはそれ(トタンと植物)**  
 2020  
 映像
- 02 | **2と3のあいだ(トタンと植物)**  
 2019  
 インクジェットプリント  
 606×455
- 03 | **2と3のあいだ(ブラインドと檸檬)**  
 2020  
 インクジェットプリント  
 606×455
- 04 | **2と3のあいだ(水さしと果物)**  
 2020  
 インクジェットプリント  
 600×600
- 05 | **2と3のあいだ(コンクリートと一輪車)**  
 2020  
 インクジェットプリント  
 728×515
- 06 | **2と3、もしくはそれ以外(わたしと彼女) -玄関-**  
 2019  
 インクジェットプリント  
 1030×728
- 07 | **2と3、もしくはそれ以外(わたしと彼女) -台所-**  
 2019  
 インクジェットプリント  
 1030×728

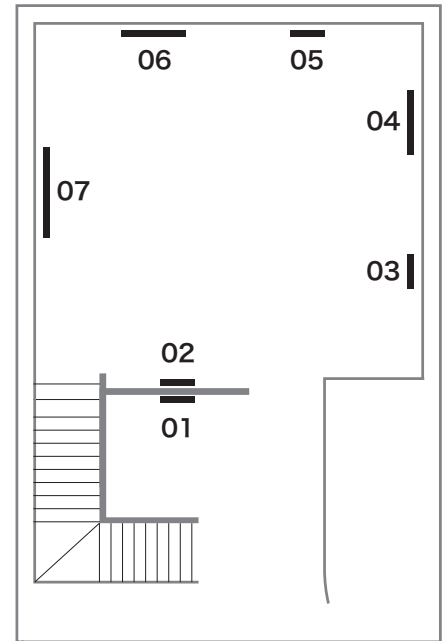
## 3F

- 08 | **のあいだ、あるいはそれ(水さしと果物)**  
 2020  
 映像
- 09 | **2と3のあいだ[静物] 緑**  
 2020  
 インクジェットプリント  
 545×727
- 10 | **2と3のあいだ[静物] 青**  
 2020  
 インクジェットプリント  
 545×727
- 11 | **2と3のあいだ[静物] 赤**  
 2020  
 インクジェットプリント  
 545×727

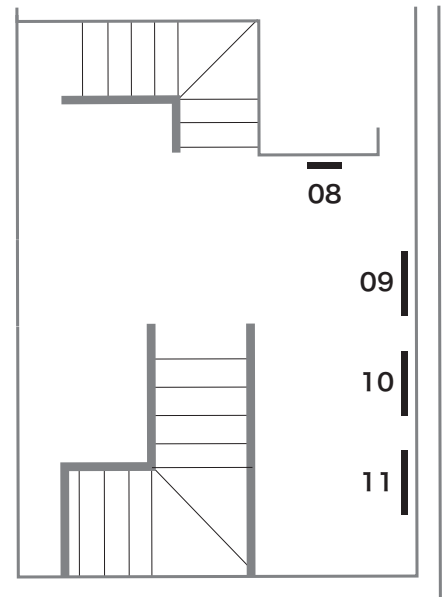
## 4F

- 12 | **2と3、もしくはそれ以外(わたしと彼女) -服-**  
 2019  
 インクジェットプリント  
 1030×728
- 13 | **2と3、もしくはそれ以外(祖母の家)**  
 2018  
 インクジェットプリント  
 1030×728
- 14 | **のあいだ、あるいはそれ(キッチン)**  
 2020  
 映像
- 15 | **2と3、もしくはそれ以外(祖母の家)**  
 2018  
 インクジェットプリント  
 1030×728
- 16 | **2と3、もしくはそれ以外 -コアラ-**  
 2019  
 インクジェットプリント  
 728×515
- 17 | **2と3、もしくはそれ以外(わたしと彼女) -充電-**  
 2019  
 インクジェットプリント  
 728×515

## 2F



## 3F



## 4F

